日報論壇

いじめ生む□変えよう

佐々木長汰

私は以前、ある中学校で「1年のクラスでいじめがあったから、来年からクラス替えを行う」といった話を聞いた時、いじめについて考えてみようと思った。

いじめの起こる原因としては、ほとんどは個人の欠点、もしくは、空気を読む能力の欠如が挙げられると思う。また、才能や個性、容姿など、人とは違うという点はもちろん、その場の人間関係なども大きく影響しているだろう。空気が読めない人が人間関係の中で浮いてしまい、何らかの欠点や違いが際立ち、いじめにつながってしまう。

欠点を解決しようと努力するというのは、大切なことだと思う。だが、努力ではどうにもならないこともあるだろうし、一朝一夕で身につくものでもない。

もし、いじめにあったならば、どうすればいいか。

いじめに対する大人の対策もより整ってきている。いじめに遭った場合、自分の大切なものを思い出してみるといいと思う。家族が、最後まで残ってくれた友達は、ただの傍観者になるかもしれない。「同調圧力」という言葉もある。最悪の事態ばかり想像すると、時に行動に、対応に困ってしまうだろう。

追い込まれてしまえば、視野が狭まりがちになる。逃げることも必要だという考えは正しいと思うが、それでは「逃げた自分」が消えることはない、という思いにとらわれる人もいるのではないか。

いじめに対する大人の対策も大切だが、いじめの問題は子どもだけではない。いじめは対抗していかなくてはならない。個人としても、社会としても。まずは、いじめられた時の対応策や相談窓口などについての知識を共有していくべきだ。

そして、いじめを許さない雰囲気を社会全体でつくっていかなければならない。

被害者ではなく、加害者が非難される世の中をつくる。そのくらいしか私には浮かばないのだが、これから大人になっていく私たちから、そのような世の中をつくっていかなければならない。

理不尽ないじめは今なお存在している。それをつくるのは、やはり「空気」なのだ。理不尽で、形のない「空気」と私たちは戦っていかなければならない。それこそ、変えるべき第一のものであると私は思う。

（盛岡市　高校生　16歳）

（2019年5月15日付・岩手日報9面）

1．共感できる部分に線を引きながら文章を読みましょう。

2．佐々木さんは「いじめの起こる原因」をどのようなものだと説明していますか。

ほとんどは個人の欠点、もしくは空気を読む能力の欠如。また、才能や個性、容姿など、人と違うという点はもちろん、その場の人間関係なども大きく影響している。

3．佐々木さんは「もし、いじめにあったならば、どうすればいい」と考えていますか。

自分の大切なものを思い出してみるといいと思う。家族が、最後まで残ってくれた友が、力を与えてくれるだろう。

4．佐々木さんは「いじめに対抗していかなくてはならない」ためにどのようなことをしていかなければならないと考えていますか。2つ答えましょう。

① いじめられた時の対応策や相談窓口などについての知識を共有していく。

② いじめを許さない雰囲気を社会全体でつくっていかなければならない。

5．この文章のタイトルの□に入る適語を文章から選び答えなさい。　空気

6．この文章を読んで、あなたはどのように思いましたか、書きましょう。

略

年　組　名前

出題・監修は日本新聞協会認定ＮＩＥアドバイザーで宮古商高教諭の尾形真也さん